

入間野小学校だより 11月号

令和4年11月1日(火)

狭山市北入曽980 TEL 04-2958-2718



～みんなが大切にされる学校～

校長 丸山 丁士

「いるまの」 「仲よくする子 考える子 やりぬく子」の育成

～はばたく挑戦者たち…有終の美～

月末には連日「今シーズン一番の冷え込みを更新」というニュースが繰り返された先月。第2運動会に始まり、修学旅行や遠足・社会科見学などなど…行事で盛りだくさんだった神無月が終わり、新暦では“晩秋”となる霜月に入りました。

今月は、市内音楽会やいるまのスクールフェスタ、そして体力課題解決研究の本発表会の後、個人面談などが予定されています。

まさに“行事の2学期”も、あと60日を残すばかりとなりました。



まずは、先月5日(金)に行われた第2(演技系)運動会。子ども達は第1運動会の後も一生懸命練習を続けていましたが、殊の外5日当日は、保護者の皆さまや多くの参観者の前で演技できることを心から楽しみ、誇りにさえ感じているかのような面持ちでした。また、高学年の発表の時には小雨が降り始めたものの、演目どおり「挑戦者たち」は熱く華麗にはばたき、観ている人たちの感動を呼びました。ご多忙にもかかわらずご来校いただいた保護者の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



そして、修学旅行。今年も6年生たちの活躍が随所に垣間見られる、爽りの多い素晴らしい修学旅行でした。

20日(木)6時30分。出発の集いが実行委員の司会進行で時間通りに始まり、実行委員長長の堀さん(2組)がめあての確認等を6年生全員の前でしっかりと伝えました。

「この修学旅行は成功するぞ…」

昨年の修学旅行を彷彿とさせる幸先のよいスタートを切ることができました。

予定より10分以上も早く(!)バスが出発し、一路栃木県は日光市へ。バスの中では、児童が自分たちで運営するレクタイム。♪ジャジャンッ!♪と、ボイスパーカッションならぬボイス効果音(?)で合いの手を入れて友だちを盛り上げる雰囲気、とても心が温まりました。

昨年と大きく違ったのは、関越道を下りた頃から…。徐々に雲行きが怪しくなり丸沼高原あたりでは横なぐりの雪になった昨年でしたが、今年はどこまでもいつまでもインディゴブルーの天高

し。そして、紅葉美(うま)し。

さらに、今回の修学旅行で印象深かったのが、児童たちの挨拶です。特に戦場ヶ原では、狭い歩道をすれ違う他校の教師や児童、そして一般のハイカーたちに、何度も何度も「こんにちは!」と元気ハツラツに挨拶をする6年生たち。「埼玉県の小学校?」「元気でいいねー」「気持ちいいなあ」と多くの方々からお褒めの言葉をかけていただき、一緒に歩いていることを誇らしく感じたほどです。途中からはなんと!草木や野鳥に向かって「こんにちは!」。実はこれ、「君笑うこと莫(な)かれ」(涼州詞)。もう十年以上も前の話になりますが、私が県西部地区の中学生サッカー選手選抜チームのコーチングスタッフとしてオーストラリアに遠征した時のこと。天然芝のサッカー場が8面ほど広がる広大な合宿地。その敷地内にある大きな木を見上げて、現地のコーディネーターが両手を大きく広げていました。何をしているのかと聞いてみると、「会話をしているんですよ。木も生きていますからね。こうやって語りかけるとエネルギーをくれるんです」

サボテンなどの植物に音楽を聴かせると元気になるという話はよく聞きますが、木と会話をするなんて(地球上に同じ生を受けた仲間として)素敵なことだな…と、あの時妙に感心したことを思い出させてくれた愉快的な6年生たちなのでした。

帰りのバスでは、一人一人全員が「振り返り」を発表し、有終の美を飾りました。「埼玉に入間野小あり」を体現することができた思い出深き修学旅行となりました。

